

2. 総合的目標達成度

3～4ページで述べたディプロマ・ポリシー（DP）は、本学の建学の精神と教育理念に基づいて総合的にまとめた学位授与の方針であり、その内容は「薬剤師として求められる10の基本的な資質」および本学独自の教育内容である「統合医療の理解と実践」の11項目を本質的に包含している（表1）。

そこで、本学が卒業時に求めるこれら11項目について、各学生の学習進捗状況に応じて学修の成果と具体的に関連づけて評価が行えるように、総合的な学修の「一般目標」、「主な関連科目」、および「総合的目標達成度の観点と評価のための指標」を明示した。

卒業までに身につける11の力

- ① 薬剤師としての心構え
- ② 患者・生活者本位の視点
- ③ コミュニケーション能力
- ④ チーム医療への参画
- ⑤ 基礎的な科学力
- ⑥ 薬物療法における実践的能力
- ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧ 研究能力
- ⑨ 自己研鑽
- ⑩ 教育能力
- ⑪ 統合医療の理解と実践

表1 ディプロマ・ポリシー（DP）と11の資質の関係

ディプロマ・ポリシー		総合的目標達成度の 観点と評価のための指標
DP1	知識：薬に関する基礎的知識に加え、生活習慣病の治療と予防、セルフメディケーションおよび臨床に関する専門的知識を修得している。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
DP2	技能：医療の現状について理解を深め、社会や他者と適切なコミュニケーションを図りながら、薬学の専門家として医療に積極的に参画できる実践的能力を修得している。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
DP3	態度：患者や生活者の立場に立って、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、自ら考え、医療人として責任を持った行動を取ることができる。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩
DP4	問題発見・解決力：薬学の専門家として教育・研究を遂行する意欲と態度を持って自己研鑽に励み、思考力・判断力・表現力を身につけて、問題を解決することができる。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
DP5	統合医療の理解と実践：西洋医学とともに、日本の伝統医学である漢方医学の考え方を取り入れた「統合医療」を理解し実践できる知識と技能を身につけている。	①⑤⑥⑪

① 薬剤師としての心構え

【一般目標】

豊かな人間性と生命の尊厳に関する認識を深め、薬剤師の義務及び法令に関する知識を修得し、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を養う。

【主な関連科目】

- 1年次 フレッシュマンセミナー、薬剤師の使命、薬学体験学習、医療にかかわる生と死の問題
- 3年次 患者の安全と薬害防止
- 4年次 臨床における心構え、薬剤師を取りまく法規、社会保障制度と医療経済
- 5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
使命感の醸成	薬剤師と同等な使命感を持って実務に携わることができる。	使命感を持って実務に携わることができる。	薬剤師に必要な使命感を自らの言葉で示すことができる。	薬剤師に必要な使命感を理解している。	薬剤師に必要な使命感に関する理解が不十分である。
責任感の醸成	薬剤師と同等な責任感を持って実務に携わることができる。	責任感を持って実務に携わることができる。	薬剤師に必要な責任感を自らの言葉で示すことができる。	薬剤師に必要な責任感を理解している。	薬剤師に必要な責任感に関する理解が不十分である。
倫理観の醸成	薬剤師と同等な倫理観を持って実務に携わることができる。	倫理観を持って実務に携わることができる。	薬剤師に必要な倫理観を自らの言葉で示すことができる。	薬剤師に必要な倫理観を理解している。	薬剤師に必要な倫理観に関する理解が不十分である。

② 患者・生活者本位の視点

【一般目標】

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先することができるようになるための知識・技能を修得する。

【主な関連科目】

- 1年次 薬剤師の使命、薬学体験学習、医療にかかわる生と死の問題
- 2年次 信頼関係の構築
- 3年次 患者の安全と薬害防止、漢方薬の基礎と応用、調剤実習
- 4年次 臨床における心構え、薬剤師を取りまく法規、社会保障制度と医療経済、個別化医療、一般用医薬品、医薬品情報実習
- 5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
患者等の権利	薬剤師と同様に患者等の権利をふまえて、実務に携わることができる。	患者等の権利をふまえて、実務に携わることができる。	患者等の権利を自らの言葉で示すことができる。	患者等の権利を理解している。	患者等の権利に関する理解が不十分である。
患者等の安全の確保	薬剤師と同様に患者等の安全を確保しつつ、実務に携わることができる。	患者等の安全を確保しつつ、実務に携わることができる。	患者等の安全の確保について自らの言葉で示すことができる。	患者等の安全の確保について理解している。	患者等の安全の確保に関する理解が不十分である。

③ コミュニケーション能力

【一般目標】

医療人として責任を持った行動に基づいて患者・生活者、多職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を修得する。

【主な関連科目】

- 1年次 英語Ⅰ、英語Ⅱ、情報リテラシー、国語表現論、フレッシュマンセミナー、医療にかかわる生と死の問題
- 2年次 英語Ⅲ、英語Ⅳ、信頼関係の構築
- 3年次 調剤業務の基礎、実務事前学習
- 4年次 個別化医療、一般用医薬品、実務事前実習、臨床における心構え、医薬品情報実習
- 5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
日本語力および英語力	日本語または英語で書かれた高度な文章を十分に理解し、かつ自らも情報発信を自在に行える。	日本語または英語で書かれた高度な文章を十分に理解し、かつ自らも情報発信できる。	日本語または英語で書かれた高度な文章を完全に理解している。	日本語または英語で書かれた高度な文章がおおむね把握できる。	日本語または英語で書かれた高度な文章の把握が不十分である。
コミュニケーション能力	薬剤師と同様なコミュニケーションがとれる。	患者等と適切なコミュニケーションがとれる。	コミュニケーションをシミュレートできる。	コミュニケーションの方法を理解している。	コミュニケーションの方法に関する理解が不十分である。
患者等への配慮	薬剤師と同様に患者へ配慮できる。	患者へ配慮できる。	患者等への配慮をシミュレートできる。	患者等への配慮について理解している。	患者等への配慮に関する理解が不十分である。

④ チーム医療への参画

【一般目標】

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる技能・態度を修得する。

【主な関連科目】

- 1年次 薬剤師の使命
- 2年次 信頼関係の構築
- 3年次 患者の安全と薬害防止、調剤業務の基礎、症候と臨床検査、実務事前学習、調剤実習
- 4年次 社会保障制度と医療経済、個別化医療、医薬品情報実習、実務事前実習、臨床における心構え
- 5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）
- 6年次 実務特論

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
チーム医療における薬剤師の役割と貢献	チーム医療における薬剤師の役割を踏まえて、積極的にチーム医療に貢献し評価される。	チーム医療における薬剤師の役割を踏まえて、チーム医療を実践できる。	チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	チーム医療における薬剤師の役割を理解している。	チーム医療における薬剤師の役割に関する理解が不十分である。
患者本位のチーム医療における貢献	患者が求めている医療に関する情報を収集し、チーム医療に生かすことができる。	患者が求めている医療に関する情報を収集し、これを医療チームに提供できる。	患者が求めている医療に関する情報を収集することができる。	患者が受けている医療について理解している。	患者が受けている医療に関する理解が不十分である。

⑤ 基礎的な科学力

【一般目標】

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を修得する。

【主な関連科目】

- 1 年次 英語Ⅰ、英語Ⅱ、基礎薬学物理、基礎薬学化学、基礎薬学生物、基礎薬学数学、情報リテラシー、基礎薬学特論、基礎物理化学、薬学化学、薬学数学、物質と構造、分析化学の基礎と酸塩基平衡、有機化合物としての医薬品Ⅰ、有機化合物としての医薬品Ⅱ、生命現象を担う分子、生体の機能と調節、人体を構成する器官、薬用植物学、基礎科学実習、薬学特論Ⅰ
- 2 年次 エネルギーと平衡、溶液と反応速度、容量分析法、分光分析と分離分析、有機化合物としての医薬品Ⅲ、有機化合物としての医薬品Ⅳ、細胞の構造と機能、生体エネルギーと代謝系、生命情報を担う遺伝子、製剤材料の物性、病原体としての微生物、身体を守るシステム、生活環境と健康、栄養と健康、生薬学、天然物化学、薬理学総論および末梢神経系薬理、病原微生物と薬、生物化学実習、生薬・漢方実習、物理・分析化学実習、有機化学実習
- 3 年次 薬学原書講読Ⅰ、構造解析と薬学応用分析、薬と化学Ⅰ、薬と化学Ⅱ、薬と化学Ⅲ、バイオ医薬品とゲノム情報、食品と健康、化学物質の生体影響、中枢神経系疾患と薬、循環・泌尿器系と薬、薬物体内動態、製剤設計、薬物送達法、社会集団と健康、症候と臨床検査、免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節疾患と薬、代謝系疾患と薬、血液・造血系疾患と薬、薬物動態解析、天然医薬品分析実習、遺伝子・免疫実習、環境・健康科学実習、薬理・薬物治療実習
- 4 年次 薬学原書講読Ⅱ、呼吸・消化器系疾患と薬、内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患と薬、悪性新生物と薬、薬学総合演習ⅠA、薬学総合演習ⅠB、薬物動態・製剤実習
- 6 年次 薬学総合演習Ⅱ
- 4～6 年次 卒業研究

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
科学に関する基本的知識	薬学に関連する基礎科学に関する新たな知見を推察できる。	薬学に関連する基礎科学を薬学専門的事項と関連づけて説明できる。	薬学に関連する基礎科学を薬学専門的事項と関連づけて理解している。	薬学に関連する基礎科学を理解している。	薬学に関連する基礎科学の理解が不十分である。
科学に必要な技能	薬学に関連する基礎科学に必要な技能である観察・実験・調査などを新たな方法を工夫して行うことができる。	薬学に関連する基礎科学に必要な技能である観察・実験・調査などの専門的方法を自ら工夫して行うことができる。	薬学に関連する基礎科学に必要な技能である観察・実験・調査などを専門的方法で行うことができる。	薬学に関連する基礎科学に必要な技能である観察・実験・調査などを基本的方法で行うことができる。	薬学に関連する基礎科学に必要な基本的技能が不十分である。
科学に対する態度	科学に関する新たな課題を追及できる。	自ら積極的に科学に関する課題に取り組むことができる。	受動的ではあるが科学に関する課題に取り組むことができる。	科学に対する関心を持っている。	科学に対する関心が不十分である。

⑥ 薬物療法における実践的能力

【一般目標】

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践するための知識・技能・態度を修得する。

【主な関連科目】

- 3年次 中枢神経系疾患と薬、循環・泌尿器系疾患と薬、薬物体内動態、症候と臨床検査、免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節疾患と薬、代謝系疾患と薬、血液・造血器系疾患と薬、薬物動態解析、製剤設計、調剤業務の基礎、漢方薬の基礎と応用、薬物送達法、統合医療、実務事前学習
- 4年次 医薬品の安全性、呼吸・消化器系疾患と薬、内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患と薬、悪性新生物と薬、医薬品情報、個別化医療、一般用医薬品、薬物動態・製剤実習、医薬品情報実習、実務事前実習
- 5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）
- 6年次 薬理・病態・薬物治療特論

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
薬物療法の実践	代表的な疾患の薬物療法および処方意図を正しく理解し、適切な服薬指導を実施できるとともに、処方の提案、薬物治療上の問題点の解決、薬物療法の適切な評価を行える。	代表的な疾患の薬物療法および処方意図を正しく理解し、服薬指導を適切に行える。	代表的な疾患の薬物療法や処方意図について説明できる。	代表的な疾患の薬物療法や処方意図を理解している。	代表的な疾患の薬物療法や処方意図に関する理解が不十分である。
薬学的管理の実践	安全で有効な医薬品の使用を推進するために必要な薬学的管理を行えとともに、薬学的管理の課題を抽出して解決策を提案できる。	安全で有効な医薬品の使用を推進するために必要な薬学的管理を適切に行える。	安全で有効な医薬品の使用を推進するために必要な薬学的管理について説明できる。	安全で有効な医薬品の使用を推進するために必要な薬学的管理について理解している。	安全で有効な医薬品の使用を推進するために必要な薬学的管理に関する理解が不十分である。

⑦ 地域の保健・医療における実践的能力

【一般目標】

地域に根ざす医療人として地域の保健・医療に参画できるために、地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する知識・技能・態度を修得する。

【主な関連科目】

- 1 年次 フレッシュマンセミナー、薬学体験学習、医療にかかわる生と死の問題
- 2 年次 信頼関係の構築
- 3 年次 患者の安全と薬害防止、社会・集団と健康、調剤業務の基礎、実務事前学習、調剤実習
- 4 年次 臨床における心構え、薬剤師を取りまく法規、社会保障制度と医療経済、医薬品情報、一般用医薬品、医薬品情報実習、実務事前実習、地域と大学
- 5 年次 実務実習（病院実習、薬局実習）
- 6 年次 在宅医療学、緩和医療学、薬局管理学

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
地域の保健、医療、福祉、介護、及び行政等への参画・連携	薬剤師と同等に、地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等へ参画・連携し、実践できる。	地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等への参画、連携について実践的な議論ができる。	地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等への参画、連携について説明できる。	地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等への参画、連携について理解している。	地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等への参画、連携に関する理解が不十分である。
地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上への貢献	薬剤師と同等に、地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に貢献できる。	地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上について実践的な議論ができる。	地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上について説明できる。	地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上について理解している。	地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に関する理解が不十分である。
地域の保健・医療への参画	薬剤師と同等に、地域の抱える保健・医療の問題に向き合っ活動し、貢献できる。	地域の抱える保健・医療に関する問題について実践的な議論ができる。	地域の抱える保健・医療に関する問題について説明ができる。	地域の抱える保健・医療に関する問題について理解している。	地域の抱える保健・医療に関する問題に対する関心や理解が不十分である。

⑧ 研究能力

【一般目標】

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を修得する。

【主な関連科目】

- 1 年次 基礎科学実習
 2 年次 生物化学実習、生薬・漢方実習、有機化学実習、物理・分析化学実習
 3 年次 薬学原書講読Ⅰ、天然医薬品分析実習、遺伝子・免疫実習、環境・健康科学実習、薬理・薬物治療実習、調剤実習
 4 年次 個別化医療、薬物動態・製剤実習、医薬品情報実習、薬学原書講読Ⅱ
 4～6 年次 卒業研究

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
薬学的知見の概要の把握	現在までの薬学的知見の概要を既存の知見として幅広く正確かつ詳細にまとめ、総説を学会発表・論文投稿できる。	現在までの薬学的知見の概要を既存の知見としてまとめ、説明できる。	現在までの薬学的知見の概要を既存の知見としてまとめることができる。	現在までの薬学的知見の概要を把握できている。	現在までの薬学的知見の概要を把握する力が不十分である。
新しい知見・高度先進研究の説明	新知見・高度先進研究について既存の知見として幅広く正確かつ詳細にまとめ、総説を学会発表・論文投稿できる。	新知見・高度先進研究について既存の知見としてまとめ、説明できる。	新知見・高度先進研究について既存の知見としてまとめることができる。	新知見・高度先進研究について把握できている。	新知見・高度先進研究の概要を把握する力が不十分である。
未知の薬学的問題の考察・発見	未知の薬学的問題を発見・考察し、新規な知見として学会発表・論文投稿できる。	未知の薬学的問題を発見し、考察できる。	未知の薬学的問題を発見できる。	未知の薬学的問題について考えることができる。	未知の薬学的問題に対する関心や考える態度が不十分である。
未解決の薬学的問題への解決への取り組み	未解決の薬学的問題の解決法を見だし、学会発表・論文投稿できる。	未解決の薬学的問題に取り組み、具体的な問題点を抽出し、考察できる。	未解決の薬学的問題に取り組み、具体的な問題点を抽出できる。	未解決の薬学的問題に取り組める。	未解決の薬学的問題に取り組もうとする態度が不十分である。
英語による薬学情報の収集と発信	英語による薬学情報の収集と情報発信が自在に行え、英語により薬学論文投稿・口頭発表ができる。	英語による薬学情報の収集と情報発信が自在に行える。	英語による薬学情報の収集と情報発信を、ある程度行える。	英語による薬学情報の収集を、ある程度行える。	英語による薬学情報の収集力が不十分である。

⑨ 自己研鑽

【一般目標】

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握したうえで、自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を修得する。

【主な関連科目】

- 1年次 英語Ⅰ、英語Ⅱ、情報リテラシー、フレッシュマンセミナー、基礎科学実習、薬剤師の使命、医療にかかわる生と死の問題
- 2年次 英語Ⅲ、英語Ⅳ
- 3年次 薬学原書講読Ⅰ
- 4年次 薬学原書講読Ⅱ、地域と大学、コース選択科目（生活習慣病学、鑑識科学、本草学、漢方治療理論、実践医療統計学、医薬品治験学、臨床栄養学、機能性食品学、漢方応用薬理学、漢方処方学、処方箋解析学、症例解析学）、実務事前実習
- 5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）
- 6年次 在宅医療学、緩和医療学
- 4～6年次 卒業研究

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
医療と医薬品を巡る社会的動向の把握	薬剤師と同等の専門的視点から、医療と医薬品を巡る社会的動向について詳細かつ正確に説明できる。	医療と医薬品を巡る社会的動向について詳細に説明できる。	医療と医薬品を巡る社会的動向について、ある程度説明できる。	医療と医薬品を巡る社会的動向について把握できている。	医療と医薬品を巡る社会的動向の把握が不十分である。
自ら学ぶ意欲	薬剤師と同等の専門的領域における新しい知識を自ら積極的に学び、薬学と医療の進歩に対応しようとしている。	新しい知識を自ら積極的に学び、薬学と医療の進歩に対応しようとしている。	受動的ではあるが新しい知識を学び、薬学・医療の進歩に対応しようとしている。	自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、その意欲を持っている。	自ら学ぶことの必要性・重要性の理解が不十分である。
情報収集と課題を見つけ解決しようとする態度	薬剤師と同等の視点から自発的に情報を収集し、課題を見つけ、解決しようとしている。	自発的に情報を収集し、課題を見つけ、解決しようとしている。	自発的に情報収集を行って課題を見つけようとしている。	自発的に情報収集を行おうと努力している。	情報収集をしようとする態度が不十分である。

⑩ 教育能力

【一般目標】

次世代を担う人材を育成するため、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と態度を身につける。

【主な関連科目】

4年次 地域と大学

5年次 実務実習（病院実習、薬局実習）

4～6年次 卒業研究

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
「薬剤師として求められる基本的な資質」についての理解	基本的な資質を理解し、人材育成に活かすことができる。	基本的な資質について具体例を示して説明できる。	基本的な資質を挙げて説明できる。	基本的な資質を挙げられる。	基本的な資質に関する理解が不十分である。
後輩等への適切な指導の実践	後輩への指導を主体的かつ適切に実践でき、かつ評価も行える。	後輩への指導を主体的かつ適切に実践できる。	後輩への指導を主体的に実践できる。	後輩への指導を具体的な指示で実践できる。	後輩への指導を実践する基礎力が不十分である。

⑪ 統合医療の理解と実践

【一般目標】

生体、疾病、治療を科学的に理解し実践する西洋医学に、健康、生活環境、衛生をふまえた予防医学や、未病と治療の概念を合わせ持つ日本の伝統医学、漢方の概念を合わせた患者本位の「統合医療」について理解し、薬学の立場から実践できるようになる。

【主な関連科目】

3年次 統合医療

4年次 コース選択科目（生活習慣病学、臨床栄養学、機能性食品学、本草学、漢方応用薬理学、漢方治療理論、漢方処方学、医薬品治験学、症例解析学）、地域と大学

6年次 在宅医療学、緩和医療学、医薬品食品相互作用学、薬局管理学、漢方処方薬剤学、臨床漢方実践学、実践医療薬学、臨床腫瘍薬学

4～6年次 卒業研究

【総合的目標達成度】

観点	総合的目標達成度を評価するための指標				
	5	4	3	2	1
統合医療の理解と実践 (3コース共通)	統合医療について薬剤師と同等に実践できる。	統合医療について実践的な説明や議論ができる。	統合医療について説明できる。	統合医療について理解している。	統合医療に関する理解が不十分である。
生活習慣病の予防と治療の実践 (健康薬学コース)	統合医療の概念および健康と予防医学の概念を踏まえ、健康増進および生活習慣病の予防と治療について薬剤師と同等に実践できる。	統合医療の概念および健康と予防医学の概念を踏まえ、健康増進および生活習慣病の予防と治療に関する実践的な説明や議論ができる。	統合医療の概念および健康と予防医学の概念を踏まえ、健康増進および生活習慣病の予防と代表的な治療法を説明できる。	統合医療の概念および健康と予防医学の概念を踏まえ、健康増進および生活習慣病の予防と代表的な治療法を理解している。	統合医療の概念および健康と予防医学の概念に関する理解が不十分である。
未病と治療の概念を合わせ持つ漢方の実践 (漢方薬学コース)	統合医療の概念および未病と治療の概念を合わせ持つ漢方について薬剤師と同等に実践できる。	統合医療の概念および未病と治療の概念を合わせ持つ漢方について実践的な説明や議論ができる。	統合医療の概念および未病と治療の概念を合わせ持つ漢方について説明できる。	統合医療の概念および未病と治療の概念を合わせ持つ漢方の考え方を理解している。	統合医療の概念および未病と治療の概念を合わせ持つ漢方の考え方への理解が不十分である。
先端医療と地域医療の実践 (医療薬学コース)	統合医療の概念、先端医療および地域医療の概念を踏まえ、医療現場において薬剤師と同等に患者本位の治療に参画し、実践できる。	統合医療の概念、先端医療および地域医療の概念を踏まえ、患者本位の実践的な治療法について議論ができる。	統合医療の概念、先端医療および地域医療の概念を踏まえ、患者本位の実践的かつ適正な治療法を説明できる。	統合医療の概念、先端医療および地域医療の概念を踏まえ、実践的な治療法を理解している。	統合医療の概念、先端医療および地域医療に関する理解が不十分である。